

高

朋 友

1993



東京電機大学高等学校同窓会

《表紙について》

本誌名の「朋友」は、仲の良い友達とか友人という意味を持ち英語での「FOR YOU」……（会員の皆様方のための）という意味を持たせております。これは同窓会幹事会において鷲見篤氏よりご提言いただいたものです。

また、表紙の画は河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を、本誌のため再度先生にデッサンしていただいたものです。もとになったレリーフは、学園創立60周年記念に合わせて、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれています。現在では小金井校舎テニスコート脇に移設されております。

◇ ◇ ◇ 国 次 ◇ ◇ ◇

校長退任に当たって	1
「朋友」と同窓会活動	1
特集 わたしの近況（国語科・社会科教員）	2
東京電機大学高等学校のあゆみ	7
平成5・6年度クラス会報告	8
クラブ紹介（バドミントン部）	10
〔名簿〕歴代教員	12
現教職員	14
卒業者数一覧	17
クラス委員一覧	20
同窓会活動報告	27
会則	29
学校の現況	31

校長退任に当たって

前東京電機大学高等学校校長 宮崎登



卒業生の皆様には、ご健勝にて益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、母校の発展のために暖かいご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昭和63年高校長就任以来6年間にわたり、卒業生の皆様にご支援・ご協力をいただきまして、その任を全うすることが出来ました。深く感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

在任中、特に高等学校にとりましては、大きな事業として小金井キャンパスの建設と移転がございました。皆様方の深いご理解とご支援を頂きまして無事移転開校することが出来ました。重ねて厚く御礼申し上げます。

これまでの教育を顧み、若人の育成にとって大切に思いますことは、一人ひとりの人間の個としての完成を知性・感性・体性、この3つのものの和に求めたいということ、もうひとつ大切なもの

は、個と集団との間に保たれるべき和であります。個の完成を目指すと同時に集団と個とのかかわりにおける和の心の育成が人間教育の根幹をなすものでありましょう。その育成の過程において不可欠なものは理解・信頼・愛情であり、その3つのものが能動的に、時には受動的に、それぞれが働きかけ、その交錯の総和によって形成されると思います。個における和、集団における和の交響が人間社会を一層輝かしく豊かにすることを心から願いたいと思います。

同窓会の皆様の在校生へのご指導ご支援を頂きましたことに、深く感謝申し上げますと共に同窓会の益々のご発展を祈念申し上げます。

「朋友」と同窓会活動

東京電機大学高等学校同窓会会長 大塚忠克



同窓生の皆様、教職員の皆様には、日頃より同窓会活動に深いご理解と、ご協力を賜りまして厚くお礼を申し上げます。

同窓会誌である「朋友」の発行が諸々の事情により遅れましたことをお詫び申し上げます。また、この大変な編集にたずさわりました「朋友」編集委員の皆様に感謝申しあげます。機関誌「朋友」は、同窓会活動の最大の事業であり母校と同窓生、在校生を結ぶのが活動誌「朋友」です。

今や、我が母校の卒業生の数は2万6千人を越え多岐に亘る分野で活躍しております。そして新しいキャンパスを卒業した生徒の皆さんの中には、電機大学や他大学に進まれています。このような中で、今後益々高等学校と卒業生の会である同窓会の重要性は増すばかりだと思います。私達同窓生は、母校である高等学校のより一層の発展を望むものです。そのためには同窓生が母校を愛し、同窓生を懐かしみ、同窓会活動を活発にすることであり、同窓生が気軽に母校を訪れ、卒業生として母校との繋がりを深めることであると思います。そして「朋友」の活動を通じお手伝いを同窓会が行い、自力をつけ活動することによって同窓会活動が活発となります。同窓会を維持し、母校の発展に寄与することも全て私達同窓生の責務であると思います。「朋友」への投稿など皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

わたしの近況（国語科・社会科教員）

現在、母校で活躍されている先生方、また、すでに退職はなさっていますがお世話になった先生方から、近況や思い出などを執筆していただきました。ページ数の都合で今回は国語・社会科教員の方にお願いしましたが、次回以降、順次他の科の先生方にもお願いしたいと考えております。——編集担当

三段跳のように

元国語科教諭 佐藤吉弥

り、振り返るも
のを持っており
ます。

この春に、神
田の校舎で受持
った教え子が亡
くなりました。
葬儀のあとでそ
のことを知って
お悔やみに行く
と、残された奥

様がこんなことを話してくれました。

「主人がいつも受持の先生の自慢話を聞いていて、それが亡くなるごく最近までして居りました。」私はその話を聞きながら、どんなことがあっても先生は、成功はしなくとも、受持った生徒の気持ちを裏切るような、悲しませるようなことをしてはいけないと、自戒する気持ちになりました。



思い出すことなど

元国語科講師 望月彦二郎

私が東京電機大学高等学校で講師をしていたのは、昭和40年頃から52・3年頃のこと、校舎は小石川の後楽園（庭園のほう）のすぐ目の前にありました。神田錦町から移転したばかりで、校舎そのものは新しく、窓からは日本庭園の緑が美しく見え、授業をしていてもほんとうに気分がよかったです。ですが、校庭と呼べるもののがなく、体育の授業は屋上で、体育祭は確か隣の都営グランドを借りてやっていたように覚えています。

実はこの小石川のグランドがなかなかのクセモノ

ノで、入学案内のパンフレットに載っている校舎全容を写した写真では、まるで本校がスタンド付きの広大なグラウンドを有しているような角度で撮られていたりしていたのです。あるいはあのグラウンドに魅かれて入学した生徒もいるのではないか。もっともクラブ活動にも利用していました。しかし、我々もそこを自分たちの庭のようにして、ソフトボールを楽しんだこともあります。

クラブ活動といえば、アメラグとオチケン（落語研究会）が盛んで、後にプロになった生徒もい

て、文化祭のときなど本職の若手落語家が来たりしていました。当時は全共闘運動の嵐が吹き荒れていて、神田の大学はすべて授業のできない状態が続いていたので、教員たちもずいぶんと神経を使ったものです。しかし、電高生がその紛争に巻き込まれたという話はついぞ聞きました。

個性のある生徒がいて、結構愉快な毎日でしたが、あれからもう20年にもなるんですね。時間というものは長くなったり短くなったり、実に不思議なものだとつくづく感じます。

シカ食った報い

国語科教諭 齋藤成信

親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしているのは夏目漱石の坊っちゃんだが、私は生来の気の弱さで損をしている。この原稿を依頼されたときも嫌と思いながら断れなかったのがその証拠だ。先日も高価な浮世絵を買わされて帰ったら女房に怒られた。そのほかにも今日まで損をしたことは随分あるが、近頃は直に腹を立てる良くない性癖まで加わり往々している。

腹が立つと言えば4月3日の朝日新聞に『食害深刻・エゾシカ狩猟メスも解禁へ』という見出しの記事が載った。環境庁が言うにはエゾシカは樹皮や牧草を食い荒らす悪者なのだそうだ。朝日はご丁寧に阿寒湖畔で樹皮を食っているエゾシカの大きな写真まで載せて同感の意を表した。北海道に限らず同様にシカ害がある県でも解禁にするお役人は言う。

べらぼうめだ。シカを殺せば樹林は保全できるとでも言いうのか。日本は世界に冠たるゴルフ場列島じゃないか。森林や原野をブルトーザーでせっせと潰し、どれほど自然生態系を破壊してきたか知れやしない。国有林の皆伐による自然荒廃は



「知る」と言うこと

国語科講師 濑尾満

卒業生のみなさん、さぞご活躍のことと存じます。それぞれの道のためにますます尽くされますよう、心よりご期待申し上げます。

さて、私たちは仕事のために多くのものを学ん

各地で見られるし、同じ北海道のことなら知床半島の原生林伐採だってお役所が言い出したことだ。広告収入を増やすために、新聞社が読まれもない紙面を増やすのは手前勝手というものだろう。紙を製造するには木を伐らねばなるまい。考えてみれば人間の方が余程質が悪かろう。

人間生存のギリギリのところでそうするなら仕方なかろうが、人間の勝手な都合で生き物の命を取るのは罰当たりだろう。鉄砲などを振り回して趣味で生き物を殺す奴の気が知れない。なるほど樹皮を食われた木は商品にならぬし、牧草を食われたら家畜の飼育に不都合だ。だがそれだからシカを殺すなんぞは芸がなかろう。人間と違ってシカは道楽や金儲けしたくて樹皮を食うわけではあるまい。もう少しましなことを考えるがいい。だいたい欲望むき出しの人間が自然を独占しようとするから自然が荒廃するのだ。

こんな風に書くといかにも偉そうだが、白状すると阿寒湖畔のホテルに泊まったとき鹿肉ステーキを食った。今に至るまで数えきれぬしくじりを重ねてきたが、これもその一つだと思っている。

いうは、それほど多くないはずです。

「知る」ということは奥深いものです。まず、「知る」のは自分ですが、自分を意識する限り、対象をより深く「知る」ことはできません。自分の考えに縛られてしまうからです。「知る」ためには、自分をいわば無の状態にしなければなりません。仕事や学問の上では、自分という存在があつてこそ「知る」という考えも成り立つでしょうが、「生きる」ためには、もはやその考えはあまり必要なく、むしろ捨て去る方がよいのです。

また、正しさには段階があります。人間は弱く認識の度合いに差があるからです。そして、正しさには矛盾さえもあります。一つの真実も認識の中でさまざまに変化して現われるからです。たとえば、「見てこそ知る」と「知ってこそ見る」、「私は自分から生きる」と「私は運命にゆだねる」な

どの表現は、どちらも正しく、決して矛盾などではありません。

さらに、「知る」ことは「行なう」ことです。「知ることだけで満足して、自ら行なわない者は、「知ることとは何か、何もわかっていないのです。実際、善を知っているだけでは意味がなく、どれだけ行なえるかで、人格が決まります。しかも、しようと意識している間はまだ不十分であり、くり返し行なっているうちに、その意志さえ忘れる時、善が理性から意志と一緒にあって、人格に刻まれることになるのです。単に学問をしているだけでは、まだ罪の中にいるのです。

最後に、言ってはならないことを三つ。

「私の言葉である。」「私の方が正しい。」「私は知っている。」

近況報告（中国の旅から）元社会科教諭 茂木 雅博

1980年3月、私は14年間勤務した本校から、茨城大学へ転出した。現在もそのまま人文学部で考古学専攻の学生達と楽しく過ごしています。

相変わらず大声で講義をしますので、名物教官の一人となっています。

私は昨年から中国歴史博物館の招きで、河南省○池県○村遺跡という。黄河添いの遺跡の発掘調査に参加させていただいております。中国の考古学研究者仲間と文明とは縁遠い農村で、一ヶ月程生活してきました。

中国の農村は、日本の便利さにくらべると、問題にならない程不便である。それは開拓途上以前である。しかしその反面自然が豊かで、農民は心のきれいな人が多い。中国の農村の一日は一番鶏の声ではじまる。そのうち牛が鳴き、人の気配を

感じる様になる、これは私が育った頃の日本の農村と同じで、大変なつかしかった。

新聞もなく、テレビも殆ど放映されることがなく、夜になると水道は止まり、時として停電も多い。勿論1ヶ月近く滞在した私は1度も風呂に入ることはなかった。

頂度晚秋であり麦蒔きの時期だったので、村中が総出で畑を耕し、小麦を蒔いていた、トラクターは普及せず、相変わらず牛耕である。

こんなのがんびりとした風景を背景に私は1ヶ月近く発掘を楽しんで来た。中国の農民から忘れていた「生きる」ということを教えられた様な気持ちで10月28日北京から帰国した。

私は50才を過ぎ、中国という新しいテーマに挑戦しようと熱い想いである。

想像力と創造力？

社会科教諭 高村 広昭

「不惑」といわれる年をかなり前に通過しているのですが、数多くの難問を抱えて迷っている状態です。

この10年間の時代の変化は、私の思考の枠組

みを変えさせるほどであったと言っても過言ではありません。特に「ベルリンの壁」の崩壊に象徴される冷戦構造の崩壊、自民党の長期政権の崩壊などは、予測をこえるものでした。



最近思うことは、「人生には、方程式はない。」と同時に、最近の変化が必ずしも人類にとって良いものとは言えないことです。

「ベルリンの壁」が消えた時、これで世界は平和になるとされました。しかし、そうはならず、アメリカなどの大国はいかかわらず力強く小国を従わせようとしています。

日本も、「国際貢献」の名のもとに自衛隊を海外派兵させてしまいました。

本校は、小金井キャンパスに移転にともない、「人間らしく生きる」を校訓として第一歩を踏みだしました。私は、この校訓を考えれば考えるほど重い課題を感じています。

私の欲望の追求を原理とする経済が貫徹しているなかで、「人類の共生、自然との共生を原理とする社会」を願うことは、非現実的、空想的と言えるでしょう。しかし、「人間らしく」と考えれば、その社会をめざして想像力と創造力を發揮すべきと思っているところです。

社会科教諭 田上 光治



「光陰矢の如し」とはよく云うが、電大高校で教員となってから、あっと云う間に今に至ってしまった。はじめてクラスを受持った時の卒業生が既に私が専任となった時の年齢に近いのである。複雑な思いで日々当時のアルバムを覗きこむ。

この間、ほとんど「倫理」を受け持つて来た。「倫理」の時間、窓側の一番前の席が授業のエサになってくれた。何十人、否百人が授業を楽しくする為に役立ってくれたか。今になって感謝している。この授業の中で、決して省略しないものにソクラテスの思想がある。「汝自身を知れ」は自分にとって理想もあるからだ。生意気な自分を戒める意味合いで心掛けて来たつもりだが、まだまだ自分のものとはなっていない。

「平成サラリーマン川柳傑作集」の中に、「親の希望 次々消して子は育つ」とあるのを見て身につまされた。自分の子供（もう高2と中である）の事もそうだが、自分自身に照しても響くものがあるからだ。あゝもしたい、こうもしたいと思っていた事が、何ひとつ果たされずに馬鹿を重ねて

仕舞つた。病氣（十年前に肝臓炎で入院）の折や、転居（上福岡から川越の新宿町、更に現在は、下新河岸）の時に、今度こそ、と目標を立てたが、何ひとつ身についていない。日々情なさに滅入ることもある。

考えてみると、授業の内容やその他の知識にしても、多くは結婚前に身につけたものである事が思はれる。「少年老い易く、学なり難し」、「光陰矢の如く」過ぎ去るから、若い時の苦労は、大切である事を銘記しておきたい。

小石川から梶野町へ

社会科教諭 鈴木 敏弘

本校での授業は、1971年4月から国学院大学大院の博士課程に進級した年であった。それ以後の21年間は、小石川校舎で2年生の世界史を担当し時には1年生の地理や3年生の文系世界史も教

えたことあった。最初のころは、大学院生だったので、高校で授業の後に大学院の講義を聞く生活であり、中国史などは前日の大学で学んだ内容を生徒に話すことあった。最初の71年に工業

特集 わたしの近況

科5クラス10時間を担当し、翌72年は2年4クラスと1年地理3クラスで計17時間を教え、12月に結婚した。73年は普通科4クラスと電子科2クラスで文系7名の半数以上が合格したのがうれしかった。以後の10年は普通科が中心で1983年から工業科となった。

小石川21年間は、学生服が制服で自分も男子高だったので近親感があったが、最後の2年生がブレザーとなつたのは、外国映画か大学生のようだ、かなりとまどいを感じた。旧校舎での最後の授業は、新しい制服であったのである。

梶野町の新校舎とブレザーの制服は、新しい気分を感じさせたのか、最初と昨年に1・2の生徒の

行動に行き過ぎを感じて心配したが3年目の今年は、環境や雰囲気になれてきたのか、授業中も落ち着いて勉強するようになった。

毎年授業で脱線気味の話として、社会の中で個人(自分)の存在を自覚すること、「自分の目で見て、自分の耳で聞いて、自身の頭で判断する」ことのできる人間になるため、歴史的な見方が必要であることを強調している。



電高にも古代人が住んでいた?

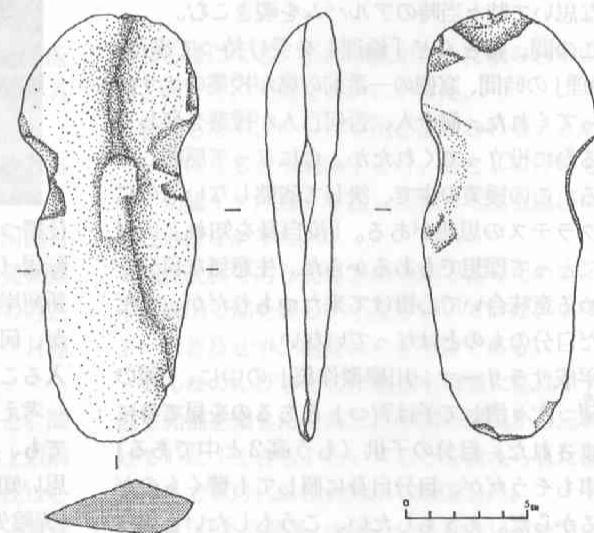
社会科講師 邊 見 端

電高が東小金井に移転して3年目になる。新しい施設と設備、均整のとれたそれらの配置、いずれをとっても眼を見張るものがある。これらを目の当たりにする時、誰しも学校全体が過去とは縁遠い存在に思えてくるに違いない。

ところが、このような学校の敷地も、古代人の営みと無縁ではなかったかも知れないということが最近明らかになってきた。敷地の南西部には南縁に沿って花壇が設けられているが、平成5年3月に、その中に雑草を埋めるための穴が掘られた。その折りに、土砂の中から打製石器一点が発見されたのである(図参照、現物は本校図書館が保管)。

それは、縦17、4、横7、1の短冊状を呈し、上部の両側縁に抉り込みが施されている。厚さは、上部が2.9cmで下に向かうほど薄くなり、下端では4mmとなっている。石質は、变成岩のホルンフェルス(自然石は多摩川の川原で拾える)である。

この種の石器には、從来定まった名称はない。三多摩地方の弥生時代の遺跡から時折出土することから同時代のものと考えられている。用途については、クワ先とみる説と、スキ先とみる説があるが、前者が有力とされる。



『東京都遺跡地図』(昭和63年刊)によれば、本校周辺はもとより、小金井市内の全域において弥生時代の遺跡の存在は確認されていない。この石器の出土は、一体我々に何を語りかけようとしているのであろうか。本校の敷地と弥生時代はどのように関わり合っているのであろうか。大変興味深いところである。卒業生、在校生の皆さん、一緒に推理してみようではありませんか。

東京電機大学高等学校のあゆみ

- | | |
|----------|---|
| 明治40年 9月 | 広田、扁本両先生によって電機学校を創設。 |
| 大正13年12月 | 私設無線電信電話局JMYA認可される。NHK東京放送局の一般放送にさきがけて送受信を行う。 |
| 昭和14年 4月 | 千代田区神田錦町にて実業学校令による東京電機工業学校を設置。 |
| 19年 4月 | 第一本科(昼間部)、第二本科(夜間部)に電気科設置。 |
| 23年 4月 | 校名を電機第一工業学校と改称し、別に電機第二工業学校を設置。機械科設置。 |
| | 学制改革により、電機第一、同第二工業学校を合体し、電機学園高等学校とする。 |
| | 機械科を廃止し、全日制および定時制電気科に電力課程、電気機器課程、電気通信課程を設置。また、全日制に普通科を設置。 |
| 27年 5月 | 電検認定制度が変更され、本校は第一次試験の免除校に認定される。 |
| 28年 4月 | 全日制電気科に電気計測課程を設置。 |
| 31年 2月 | 校名を東京電機大学高等学校と改称。 |
| 32年 4月 | 文部省産業教育研究校に指定される。 |
| 11月 | 学園創立50周年記念式典を東京体育館にて挙行。 |
| 34年 10月 | 文部省産業教育指定校として研究発表会を行う。 |
| 38年 3月 | 高等学校の教育課程改訂にともない、工業科の学科を全日制電気科、電子科、工業計測科、機械科、定時制電気科、電子科と改編。 |
| 39年 6月 | 山梨県八ヶ岳山麓に清里寮竣工。 |
| 40年 3月 | 小石川新校舎竣工。 |
| 40年 4月 | 小石川新校舎に移転開校。 |
| 43年 5月 | 学園創立60周年記念式典を挙行(於大学工学部5号館7階大講堂)、兼ねて7号館落成披露。 |
| 44年 3月 | 工業計測科廃止。 |
| 46年 3月 | 定時制廃止。 |
| 52年 6月 | 大学理工学部開設ならびに学園創立70周年記念式典を鳩山校舎において挙行。 |
| 54年 3月 | 隣接都有地購入。 |
| 6月 | 高等学校創立40周年記念式典を挙行。 |
| 57年 9月 | 学園創立75周年記念式典を東京プリンスホテルにおいて挙行。 |
| 58年 8月 | 高等学校3号館竣工。 |
| 60年 4月 | 機械科を電子機械科に改編。 |
| 平成2年 4月 | 工業科の3学科を電子電気科、情報科学科の2学科に改編。 |
| 4年 2月 | 小金井新校舎竣工。 |
| 4年 4月 | 小金井新校舎に移転開校。 |

平成元年度、電子科2組卒クラス会

須賀直哉

毎年のように電高祭りに集まっていた数名の帰り道においての会話。

A：そういえば、今年で大学も卒業だけどそろそろ高校の時のクラス会をやって見てもいいよなー。

B：そうだよな、学校卒業して社会人になるとみんなバラバラになるからなかなか時間がないよなー。

C：じゃーこのへんでクラス会でもやるか。と言う感じでクラス会の計画を立てることとなりました。

2月頃より連絡を始めましたが、大学にまだいる人も多かったので卒業研究や仕事などで忙しい人がほとんどで連絡を取るのが大変でした。数名の協力により28名の人が出席していただけることとなり、平成5年3月20日にお茶の水の庄やにて行われることになりました。

開催時間が近づくにつれてみんなが集まつくるたびに「おー」という歓声があがり高校時代と変わらない人、えーと言うくらいに変わってしまった人など様々でした。

当日は、恩師内山章夫先生にも出席いただき、

先生のお子さんの話題や高校時代の思いでや近況を語り合い、4年前の高校時代の頃に戻ったようでした。お店の好意によりカメラをお借りでき、仲の良い者同志で写真を撮ったりで久しぶりの再開で非常に盛り上がった頃、予定の時間が来てしまい、みんな名残惜しくもまたの再会を約束してお開きとなりました。

なお、本クラス会を開催するに当たり、東京電機大学校友会、東京電機大学高校同窓会より多大なお祝いをいただき誠にありがとうございました。



平成3年度、電子科1組卒クラス会

立脇竜

私は平成4年卒業の3D1のクラス委員をやっている立脇竜（20才、乙女座）です。担任の先生は内山章夫先生でした。少し長瀬剛に似ている先生です。その長瀬先生に終業式当日有無をいわさずに、クラス委員を言いわたされたのです。ちょっとまいりました。しかしクラス委員をやってクラス会の準備などをみると、もっとまいりました。53人の卒業生に連絡をとったり、店の予約などでクラス委員の大変さに家出を決意しました。

これはうそです。でもクラス会当日に50人近くのみんなや先生が集まってくれたのでいそがしかったことはまったく苦になりませんでした。そ

して考えてみればクラス委員はとてもいい仕事だと思うようになったのです。なぜなら自分のやりたい時に勝手にクラス会をやれるし、日程はほとんど自分の都合で決めてしまうという自分勝手さ90%でできてしまうからです。これからは100%自分の都合でクラス会をやろうと日夜努力しています。この様に勝手にクラス会ができるのも在校当時優良模範生徒の私にクラス委員を言いわたされた内山先生いや長瀬先生のおかげです。くだらないことを色々書いてしまって今気づいたのですが、これではクラス会の報告になってしまふね。なんて私はばかなんでしょう。ここへんで我々元3D1のクラス会の報告をしまし

ょう。場所は池袋です。東口のWAVEに集合しました。かねてから時間にはルーズな私は一番最後に来ました。（みんなへの連絡ではもちろん時間厳守）ちょっと生意気ですね。そしてみんなで店へ行くと、お約束のように「東京電機大学高校クラス会様」となっていました。一瞬、店をまちがえたかと思いました。先生に乾杯の音頭をとってもらい会のはじまりです。昔の話や自分の今の学校や仕事場の話題で盛り上がっています。ひたら食べている奴もいます。男二人で語り合って

いる奴らもいます。あやしいです、私はジプシーようにいろいろなテーブルに行って話したり、飲んだりしています。けっこう人気者です、芸をやる奴もいます。先生はあいかはらず、すずしく飲んでいます。そしてあっという間に2時間がすぎ会も終わりました。もちろん半分の人間は2次会へ突入です。先生は2次会に出れないからといって一万円も私たちにくださいました。本当にいい先生です。有難く使わせて頂きました。有難うございました。

平成5・6年度クラス会開催報告

(平成6年3月26日現在)

(開催日)	(開催クラス)
5・4・10	29年定時制電気科電気機器課程1組
5・4・18	平成4年電子科1組
5・5・15	41年機械科
5・5・16	27年定時制電気科1・2組・電気通信課程・機械科合同クラス会
5・6・6	26年定時制電気科電気通信課程
5・6・28	40年普通科1・2・3組合同クラス会
5・7・10	48年電子科1組
5・7・17	37年定時制電気科電力課程・電気機器課程合同クラス会
5・7・31	37年普通科1・2組合同クラス会
5・8・28	48年電気科1組
5・9・10	31年電気科電気計測課程
5・9・23	平成2年普通科4組
5・9・26	一工17年第2本科電気科
5・10・23	61年普通科6組
5・11・2	32年電気科電気通信課程2組
5・11・2	平成4年電気科1組
5・11・5	33年定時制電気科電力課程
5・11・6	平成元年普通科1組
5・11・20	電気科電力課程1組
5・11・26	53年電子科1組
5・11・27	二工24年第一本科電気科
5・11・27	平成2年普通科5組
5・12・1	41年定時制電気科電力課程1組
5・12・4	平成2年電子機械科1組
5・12・4	34年電気科電気通信課程2組
5・12・8	59年普通科3組
5・12・18	26年電気科電気通信課程

クラブ紹介

バドミントン部

バドミントン部での思い出

S59年L5卒 石田 智

バドミントンというスポーツご存じですか？遊んだことのある人は、多いかと思います。

私自身、中学生のころ遊び感覚で始めたことを覚えております。このスポーツ、スマッシュでは200 km/hのスピードが出る程、はやく又、3セットを戦うスマッシュ、相手のプレーの先を読む洞察力と、あのせまいコート中で意外に激しいスポーツです。高校時代も入部した人のほとんどが、高校から始める人で、同じレベルからスタートいたします、その為か部員同士が競いあい部内のチームワークも良好です。

現在は、小金井校舎に移り、体育館を使用できる回数も増えより実戦的な練習ができ、当時の週に1~2回しか使えず廊下で練習したこと思い出します。天井も幅もせまく



とても練習とはいえない状況ではありましたが、楽しく、真剣に練習したこと、皇居へのランニングなど、体育館が使えないなりに練習いたしました。

又、夏には新潟での合宿です、バドミントンのコート作りから始めるといった状況でしたが、夏

の暑い時期に体育館をしめきり、カーテンをしめといったガマン大会ともいえる中で約1週間、当時の大学のOBの先輩の指導で練習いたしました。午前中はウェイトトレーニング（シゴキ？）と名ばかりのわけのわからない練習、午後は、まだやるのといった反復練習でした。最終日には顧問杯をかけてのシングルスの大会です、なんとかOBを負かそうと思い合宿で得たプレーを使いとひっしの思い、まだまだ感じていつか負かしてとその後の練習に力が入ってました。

現在のOB会（私以降のOBが主力）は年2回位、現役との交流試合、総会（飲み会）ですが、世代を越えた交流をはかっております。

結成もない会でまだ現役の役に立つていませんが今後も影響ながら応援していきた

いと思っております。又、今後の高校のさらなる発展と、我が部の飛躍を願っております。

クラブ紹介

部活動で得るもの

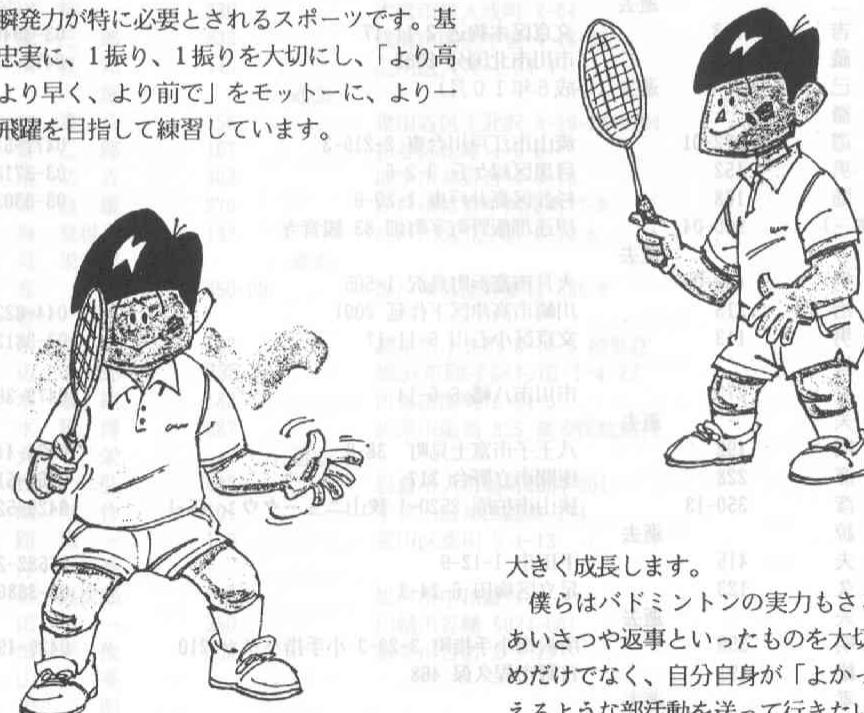
3L 岩波 千穂・3C 国井 洋一・松崎 信宏

僕等バドミントン部は現在、顧問の向芝先生、山崎先生のもと部員20名でさわやかな汗を流しています。

僕等バドミントン部では、週4回ほど体育館アリーナと学校の周辺を使って活動しています。

バドミントンのシャトルは初速300km以上で飛んでくることがあります。バドミントンという競技は、このように早いスマッシュを打ち返すための動体視力、そのスマッシュを打つための筋力や、瞬発力が特に必要とされるスポーツです。基本に忠実に、1振り、1振りを大切にし、「より高く、より早く、より前で」をモットーに、より一層の飛躍を目指して練習しています。

とのつき合いがさかんです。主に合宿でお世話になります。また、この合宿が、我々が最も恐れる行事の一つでもあります。合宿での思い出は苦しかった事、つらかった事、いろいろあります。しかしそんな合宿から得るものはとても大きいです。この合宿を乗り越えることによって、精神的にも、体力的にも一段とアップし、人間としても



大きく成長します。

僕らはバドミントンの実力もさることながら、あいさつや返事といったものを大切にし、勝つためだけでなく、自分自身が「よかったなあ」と思えるような部活動を送って行きたいと思います。

バドミントンは、繊細で味のある球技です。新幹線を越えるスマッシュを打ちたい方、ラケットを握ってみたい方、又、天下をとろうとしている方は、是非、バドミントン部を訪れてみてはいかがでしょうか。きっと新しいあなたが見つかることでしょう。

それはさておき、我がバドミントン部は、OB

学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学校					電機第二工業学校					小計		合計	
	第1本科		第2本科		併設	第1本科		第2本科		併設				
	電気科	機械科	電気科	中 学		電気科	機械科	機械科	中 学		電機第一	電機第二		
	E	M	E	J	E	M	M	M	J	工業学校	工業学校	工業学校		
S 17			89								89		89	
18	51		85								136		136	
19														
20	101		91								192		192	
21	58		48								106		106	
22			100		132	50					100	182	282	
23	53		106	161	78	26	8	243			320	355	675	
24	117	26	65	359	190	46					567	236	803	
合計	380	26	584	520	400	122	8	243			1510	773	2283	

卒業年次	全 日 制								定 時 制					小計		合計	
	電 气 科				電氣機器課程	電気通信課程	電気計測課程	電氣科	電 气 科				全日制	定時制			
	電力課程		電機課程						電力課程	電氣機器課程	電気通信課程	電氣計測課程					
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I	E	M	E ₁	E ₂	M	C		
S 24									94	10					104	104	104
25	54	52			64		39				42	44			209	86	295
26	48	48	51	49	52		45				49	47	27	60	293	183	476
27	51	50	50		46	43	53				40	46	50	37	293	173	466
28	56	57			51		50				53		38	64	214	155	369
29	50	37			62		55	29			49		41	39	233	129	362
30	55	53			36	44	54	38			55		30	40	280	125	405
31	55	49			59		58	56	33		50		28	57	310	135	445
32	52	54			49		59	60	38		73		41	51	312	165	477
33	56	59			55		63	63	48		55		36	64	344	155	499
34	61	66			62		51	54	60		49		41	44	354	134	488
35	56	59			52		60	65	56		59		48	54	348	161	509
36	62				55		61	60	52		67		51	60	290	178	468
37	62				64		61	64	66		73		65	65	317	203	520
38	58	61			67		63		60		70		57	59	309	186	495
39	60				49		56	53	54		62		53	55	272	170	442
40	65				65		63	67	57		51		35	58	317	144	461
41											47	47		52		146	146
合計	1696			975	1433	591	94	10	1128	641	859	4695	2732		7427		

卒業年次	全 日 制						定 時 制		小 計		合 計				
	電 气 科			电 子 科		机 械 科		工 業 計 測 科	电 子 機 梯 科	电 气 科	电 子 科				
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M	E ₁	E ₂	D			
S 41	68	66		69	69	54		62			388		388		
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519
43	56	54		58	54	54		55		48	41	37	331	126	457
44	61	64		67	64	68		56		64	64		380	128	508
45	61	60		51	55	48	49			47	21		324	68	392
46	66	63		62	64	55	55			47	20		365	67	432
47	56	55		58	59	58	59				345		345		
48	50	51		52	52	53	53				311		311		
49	56	57		51	51	52	49				316		316		
50	55	52		61	62	49					279		279		
51	52	50		43	50	48					243		243		
52	59	59		58	56	50					282		282		
53	60	56		59	66	56					297		297		
54	51	55		49	51	52					258		258		
55	50	47		56	55	43					251		251		
56	49	50		49	51	51					250		250		
57	54	54		57	55	48					268		268		
58	50	47		51	54	53					255		255		
59	51	53		54	51	50					259		259		
60	50	50		43	43	50					236		236		
61	54	52		50	53	54					263		263		
62	49	52		54	51	46					252		252		
63	49	49		47	48						246		246		
H 1	54	52		51	51						258		258		
2	52	51		49	53						258		258		
3	45	49		51	51						250		250		
4	51	52		51	53						260		260		
合 計	2969		2946	1409	229	263	328	189	7816	517	8333				

卒業年次	全 日 制					合 計	
	電 子 電 气 科		情 報 科 学 科				
	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁	C ₂		
H 5	44	43	44	46	44	221	
6	42	39	42	42	41	206	
合 計	254		173			427	

卒業年次	全 日 制					合 計	
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅		
S 27	37					37	
28	30					30	
29	39					39	
30	47					47	
31	58					58	
32	42					42	
33	50					50	
34	50					50	
35	60	55				115	
36	55	54				109	
37	55	53				108	
38	51	55				106	
39	59	56				115	
40	63	64	60			187	
41	63	64	63	65		255	
42	60	63	64	62		249	
43	58	56	58	58		230	
44	60	53	53	51		217	
45	55	57	57	57		226	
46	54	51	54	57	54	270	
47	49	49	50	49		197	
48	54	54	54	53		215	
49	52	52	55	48		207	
50	51	50	51	51	50	253	
51	53	53	54	52	42	254	
52	52	54	53	51	52	262	
53	52	51	53	52	52	260	
54	55	55	56	56	49	271	
55	54	53	55	54	50	266	
56	47	49	49	49	47	241	
57	53	51	54	52	48	258	
58	51	50	51	51	52	255	
59	50	49	49	50	51	249	
60	47	46	46	45	43	227	

卒業年次	全 日 制								合 計	
	普 通 科									
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇	L ₈		
S 61	46	47	45	47	47	46			278	
62	54	53	54	54	52				267	
63	47	46	47	47	47	48			282	
H 1	28	47	46	47	46	47			261	
2	30	49	49	47	47	47	25		295	
3	26	49	49	49	45	45			267	
4	24	43	41	43	41	41	24	16	273	
5	L ₁₋₇ 22	40	39	39	42	41			223	
6	L ₁₋₈ 16	43	42	42	43	L ₆₋₇ 40			226	
合 計	2059	1814	1551	1478	1005	355	49	16	8327	

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名改称や学科改編等により、複雑なクラスわけとなっております。

現在471のクラスがありますが、今回クラス委員承諾書を返送いただいた方のみ、委員として掲載させていただきました。空欄になっているクラスで、実際に活動されているクラス委員のかたのご一報をお待ちしております。

また、クラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力御願い致します。

なお、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしております。委員の方には大きな負担をおかけしていますが、委員の同窓会活動は大変重要です。会員の皆様方も御協力よろしくお願ひ致します。

【凡 例】

18	清水 明	・上段 クラス担任
	豊田 健造	・下段 クラス委員

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				併設中学		
	第1本科		第2本科			第1本科		第2本科			
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科				
	E	M	E	J	E	M	M	J			
S 17			稻垣 忠雄								
18	堤 良富		清水 明								
			豊田 健造								
19											
20	清水 明		清水 明								
			池ヶ谷道夫								
21	清野 明夫		作道 兵次								
	倉持 悅久		白石 哲								
22			服部 三郎			加藤 高治					
			栗屋 昭								
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉 原口 喜八 深海登世司 金森	早川 喜知	伊藤 克己				
	青木 仁		蛭間 恵治			清水 清					
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家					
	中田 勇		鈴木 治郎								

卒業年次	定 時 制					
	電気科	機械科	電 気 科			
			電力課程		電気機器課程	電気通信課程
	E	M	E ₁	E ₂	M	C
S 24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	横山 実					
25		服部 三郎	吉田 宇一			
		鈴木 治郎				
26		鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
27		横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
28		河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久	
29		鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫	
30		河部 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫	
31		宮田 利一				
32		小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫	
33		河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫	
		茂木 実				
34		小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫	
		龜山 孝				
35		角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫	
36		角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫	
37		桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫	
38		杉野 良知		富山 晃宏		
		石崎 泰司				
39		杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男	
40		大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭	
41		吉田 宇一		松枝 速雄	坂本 寛	
		見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一	
		小室 泰之				

卒業年次	全 日 制								
	電 气 科								
	電 力 課 程			電 气 機 器 課 程		電 气 通 信 課 程		電 气 計 測 課 程	
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I
S 25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫		
	中田 勇				服部 僕美		森山 满隆		
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫		
	加藤 正樹						杉山 和男		
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(齊藤)実	板垣 光夫	桜井 松治		
	安藤 和夫	岩田 廉一			今井 昇		野瀬 健一		
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男		
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(齊藤)実		中島 輝夫		伊藤 克己
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治		大江 康男
		石塚 武夫					柴山 茂男		
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎	伊藤 克己
								小長谷 登	
32	角川 一治	桜井悌二郎			中沢(齊藤)実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶
	倉林 純一						柳 博		
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良次郎	大江 康男
	飛田 健靖				後藤 隆夫				
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(齊藤)実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己
					松下 祐輔		仲野 成憲		
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
	北村 義明	名古屋 敦					見崎 正行		
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎	伊藤 克己
								藤田 安彦	
37	野口 茂				斎藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己
	形屋 憲一								
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫	白井光太郎	渡辺 太
								渡辺 正行	
40	中村 広幸				斎藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己

卒業年次	全 日 制							
	電 气 科			電 子 科		機 械 科		工業計測科
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I
S 41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
					印宮 登			
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
43	斎藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斎藤 広吉		渡辺 太
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
		山越 茂雄		花嶋 秀年				
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
		秋山 清隆						
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
					佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	樺 将		
		大塚 徹						
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
		後野 明仁			清水 敏久			
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
55	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	樺 将		
	石井 和之							
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	柳原 俊行							
57	斎藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
		龜岡 和裕		大曾根康史		鈴木 久郎		
60	斎藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男		
	深見 孝一							

卒業年次	全 日 制					
	電 气 科		电 子 科		机 械 科	
	E ₁	E ₂	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂
S 61	津村 栄一	鈴木 治郎	見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治	
62	斎藤 広吉	渡辺 太	中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫	
63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴		小峯 龍男
	村田 周也					佐藤 秀明
H 1	中田 勇	津村 栄一	見崎 正行	内山 章夫		古城 仁
2	鈴木 治郎	妹尾 敬	中村 隆一	上原 隆雄		大久保 靖
	戸塚 敏朗			中島 浩一		
3	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷哲弘		小峯 龍男
	甘利 友朗 佐藤 淳		前田 隆 松本 信寛	村社 敏夫		石沢 岳彦
4	中田 勇	深川 紘司	内山 章夫	林 幸男		石松栄一郎
	石井 英二 澤 雅祐	井尻 崇 梅沢 康剛	立脇 竜 谷 伸彦	岡山 進一 両角 祐樹		中村 一道 吉田 康輔

卒業年次	全 日 制					
	電 子 電 气 科			情 報 科 学 科		
	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁	C ₂	
H 5	津村 栄一	上原 隆雄	平川吉治	中村 隆一	八百屋 尚志	
	中島 功 根本 雅範	田島 孝洋 青木 圭樹	片山 誠司 枳丸 弘樹	田島 真 平野 文崇	照井 博志 高橋 洋一	
H 6	見崎 正行	河野 吉伸	五十木基晴	小峯 龍男	渡邊 盾夫	
	福田 貴之 中山 義昭	石井 淳 原田 洋介	玉井 貴司 西田 哲郎	市川 大輔 速藤 好鏡	梅原誠之助 小家 一	

卒業年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 27	青木 成宗				
28	吉田 孝俊				
29	宮本 敏雄				
30	平野 三郎				
31	佐藤 吉弥				
32	大久保芳隨				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳隨	北原 泰彦			
	鈴木 敏雄	前嶋 万人			
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三	植田 正昭			
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
		藤田 明也			
38	大久保芳隨	伏見栄次郎			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞綱				
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳隨	
42			松井 努		
	中島 輝夫	山田 宏明	磯部 昭二	白川 守昭	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	

卒業年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳隨	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
46	杉野 良知	楳 板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博	
47	大久保芳隨	磯部 昭二	齊藤 成信	高久 広毅	
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
50	杉野 良知	磯部 昭二	齊藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
			川島 正春	古城 仁	
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	齊藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
55	大江 康男	齊藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦				道伝 弘昌
57	大谷 稔	田上 光治	磯部昭二	石川 孝志	板垣 光夫
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	楳 将	松岡 三夫
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
60	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
				京極 政宏	

同窓会の活動報告

高等学校同窓会役員

名譽会長	宮崎 登	参与	鷺見	篤	23年卒
会長	大塚 忠克	"	谷沢	正一郎	23 "
副会長	向芝 京太	"	野瀬	健一	27 "
"	萩原 宏芳	"	加藤	康太郎	29 "
庶務幹事	串橋 幸保	"	賀張	雅弘	31 "
会計内	山 章夫				

平成4・5年度役員

職務	氏名	卒年	住居地
幹事	豊田 健造	18	小平市
"	阿久津 功	23	市川市
"	鈴木 治郎	24	新座市
"	宇野 助男	27	柏市
"	柴山 登	30	横浜市
"	小長谷 太郎	31	横浜市
"	白川 節	33	目黒区
"	松下 補	34	朝霞市
"	大塚 忠	39	浦安市
"	渡辺 喜義	39	藤沢市
"	北印 平弘	40	相模原市
"	印宮 登太	41	江戸川区
"	向山 京太	48	新座市
"	平野 修一	49	越谷市
"	古城 仁樹	50	稻城市
"	鈴木 元裕	54	市川市
"	米山 栄	56	北区
会計監査	横山 真一	27	船橋市

平成4年度事業報告

- [1] 総会於 : 小金井校舎 平成4年6月20日
 - 1. 平成3年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
 - 2. 平成4年度事業計画案、予算案の審議および承認
 - 3. 役員の改選
 - 4. その他 小金井校舎落成記念品の贈呈
小金井校舎建設募金協力要請
 - 5. 新校舎披露見学および懇親会
- [2] 同窓会誌「朋友」1993年版の発行 平成4年度クラス委員名簿改訂版の発行
- [3] 平成4年度クラス委員に委嘱状と承認書の発送・回収(5月)
- [4] 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
- [5] 小金井校舎建設募金の協力要請
- [6] 新会員に同窓会活動について説明会(平成5年3月)
- [7] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会(平成5年3月)
- [8] 入学記念品として、ネクタイピンを贈呈(平成4年4月)
卒業記念品として証書挟みの贈呈(平成5年3月)
- [9] クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給
- [10] 準会員活動 電高祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [11] 第7回卒業生招待会(ホームカミング)の協力
- [12] 小金井校舎建設募金活動の推進取組み

平成5年度事業計画(案)

- [1] 総会於 : サテライトホテル 平成5年6月19日
 - 1. 平成4年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
 - 2. 平成5年度事業計画案、予算案の審議および承認
 - 3. 役員の改選
 - 4. その他
 - 5. 懇親会
- [2] 同窓会誌「朋友」1993年版の発行 平成5年度クラス委員名簿改訂版の発行
- [3] 平成5年度クラス委員に委嘱状と承認書の発送・回収(5月)
- [4] 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
- [5] 新会員に同窓会活動について説明会(平成6年3月)
- [6] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会(平成6年3月)
- [7] 入学記念品として、ネクタイピンを贈呈(平成5年4月)
卒業記念品として証書挟みの贈呈(平成6年3月)
- [8] クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給
- [9] 準会員活動 電高祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [10] 第8回卒業生招待会(ホームカミング)の協力

卒業年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇
S 61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	楳 将	吉場 章二	飯島 稔	
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	斎藤 成信	平山 桂樹		
63	佐々木 徹						
H 1	山崎 晴康	人見 芳行	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔	
2	斎藤 貴治						
3	中村 圭佑	林 幸男	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔	
4	中西 勇人		青木 健				
5	白川 守昭	山崎 武光	高久 広毅	宮本 治	生熊 勝彦	川口 純	平山 桂樹
6	佐伯裕次郎			青木 義幸			中山 博
L ₁₋₃	斎藤 成信	人見 芳行	高村 広昭	八百屋尚志	則友 克敏	山崎 晴康	
L ₄₋₇	和田 崇秀				藤井 宣彰		
6	中村 圭佑	黒沼 康広	楳 将	田上 光治	向芝 京太	山崎 武光	飯島 稔
L ₁₋₃	横田 智寛	長澤 将章	五十嵐哲哉	田沼 珙男	戸部 拓也	向後 隆産	田邊 敏宏
L ₄₋₇	山口 潤	吉田 浩康	仁平 雅実	土屋 正明	矢古字 卓	中村 真也	木野 岳人
L ₁₋₃	高久 広毅	宮本 治	大谷 稔	川口 純	妹尾 敬	大久保 靖	
L ₄₋₇	永野 泰介	小川 智成	飯塚 正基	中杉 優之	金子 泰夫	奥田 明良	
L ₁₋₃	北川 研	田口 浩	鈴木 貴宏	山崎 啓誓	関口 昌宏	福田 弘明	
L ₄₋₇	斎藤 成信	古城 仁	高村 広昭	前田 謙明	吉場 章二	山崎 晴康	
L ₁₋₃	小股 淳	神 荘一郎	大野敬一郎	稲垣 洋行	浦沢 誠一	松井 竜作	
L ₄₋₇	小木 勇樹	米田 聰仁	川島 俊彦	長南 和夫	中野 徳康	松本 剛	

吉野会窓同窓会

平成4年度決算報告

自 平成4年4月1日
至 平成5年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金 3600円×533名	1,918,800	事 業 費 総 会 費 教職員・クラス委員懇談会会費	1,336,253 133,912 185,711
補 助 金	0	ク ラ ス 会 补 助 金	190,000
利子・配当金	5,904	入 学 ・ 卒 業 記 念 品 費	189,345
雜 収 入	50,000	同 窓 会 誌 製 作 発 行 費	593,285
		新 ク ラ ス 委 員 懇 談 会 費	0
		準 会 員 活 動 奨 励 費	44,000
		会 議 費	183,585
		事 務 通 信 費	72,905
		諸 費	146,621
		予 備 費	0
小 計	1,974,704	小 計	1,739,364
前期繰越金	596,669	次期繰越金	832,009
合 計	2,571,373	合 計	2,571,373

平成4年度特別事業決算報告

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
東京電力社債	5,000,000	小金井新校舎移転寄贈品	5,000,000

平成5年度予算(案)

自 平成5年4月1日
至 平成6年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金 3,600円×444名	1,598,400	事 業 費 総 会 費 教職員・クラス委員会懇談会会費	2,295,000 550,000 200,000
準会員活動奨励費	885,000	ク ラ ス 会 补 助	400,000
利子・配当金	10,000	入 学 ・ 卒 業 記 念 品 費	435,000
雜 収 入	100,000	同 窓 会 誌 製 作 発 行 費	650,000
		新 ク ラ ス 委 員 懇 談 会 費	10,000
		ク ラ ブ 活 動 奨 励 費	50,000
		会 議 費	350,000
		事 務 通 信 費	100,000
		諸 費	150,000
		予 備 費	530,409
小 計	2,593,400	小 計	3,425,409
前期繰越金	832,009	次期繰越金	0
合 計	3,425,409	合 計	3,425,409

東京電機大学高等学校同窓会会則

第1章 名称および事務所所在地

第1条 本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。

第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1東京電機大学高等学校内に置く。

第2章 目的

第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員の母校との連絡を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。

第3章 会 員

第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員となる。

2 正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業高校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。

3 準会員は東京電機大学高等学校の在校生とする。

4 特別会員は東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。

第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

第4章 役 員

第6条 本会には次の役員を置く。

一 名誉会長1名

二 顧問および参与若干名

三 幹事25名以上50名以内（うち、会長1名、副会長2名、会計、庶務各若干名を含む）会計監査2名

四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名を置くことができる。

第7条 名誉会長、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べることができる。

2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。

3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

4 会計は本会の会計を担当する。

5 庶務は本会の庶務を担当する。

6 幹事は会務を分担し、会の運営に当たる。

7 地域委員は地域同窓会を、クラス委員はクラス会を開催し、会との連絡を緊密にし、会の発展を図る。

第8条 会長、副会長の任期は2ヶ年とし再選を妨げない。

2 幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。

3 前1項および2項以外の役員の任期は1ヶ年とし再任を妨げない。

4 役員に欠員を生じ、会の運営に支障あるときは補充することができる。但し任期は前任者の残任期間とする。

第5章 会 合

第9条 総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決をおこなう。

第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。

2 クラス委員会、地域委員会は、それぞれクラス会、および地域同窓会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。

3 クラス会、地域同窓会およびその他の会は隨時に開催できる。各会を開催した場合は会長に結果を報告する。

第11条 幹事会の議決は出席人員の過半数の賛成を必要とする。

第12条 本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。

第6章 会費および会計

- 第13条 本会に入会するものは会費を納入するものとする。
- 2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。
- 第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。
- 第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。
- 第7章 会則の改正その他
- 第17条 本会則の改正は総会の議決を要する。
- 第18条 本会の運営上必要と認めたときは細則を設けることができる。

東京電機大学高等学校 同窓会会則細則

- 第1条 名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴する。
- 2 顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。
- 3 参与は会長（旧会則による幹事長を含む）の経験のあるもの、または幹事（旧会則による常任幹事を含む）の経験のあるもので幹事会の承認を得たもの。
- 4 会長および副会長は幹事会の互選で定める。
- 5 会計および庶務は幹事会の互選で定める。
- 6 クラス委員はクラス会より選出する。
- 7 地域委員は地域同窓会より選出する。

付 則

- 1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。
- 2 昭和46年5月15日第6条四項一部改正
昭和47年6月27日第6条一項一部改正
昭和50年6月7日第13条一項一部改正
昭和56年6月27日全面改正
- 昭和57年6月26日第13条一項一部改正
昭和60年6月22日一部改正
平成4年6月20日全面改正

- 8 会則第12条による委員会の委員は幹事会の推薦により定める。

- 第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。

- 第3条 本細則の改正は幹事会の議決を要する。

付 則

- 1 本細則は昭和35年4月17日より実施する。
2 昭和56年6月27日全面改正
3 昭和60年6月22日全面改正
4 平成4年6月20日全面改正

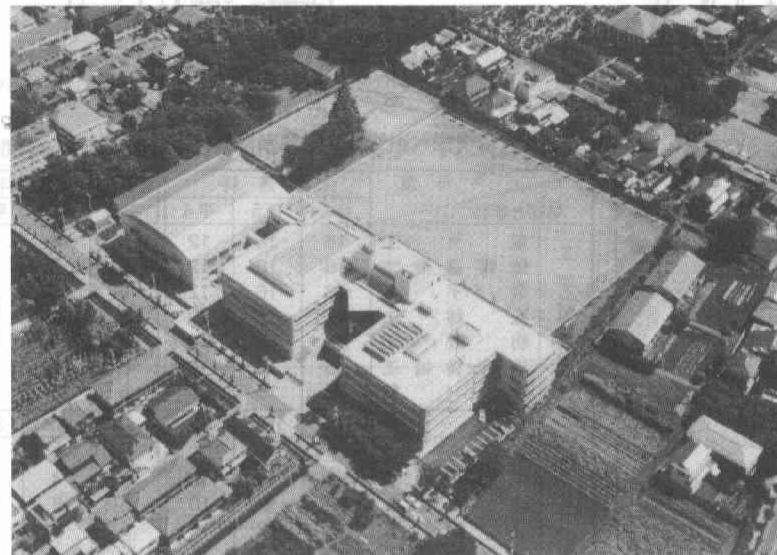


東京電機大学高等学校

〒184 東京都小金井市梶野町4-8-1 電話0422-37-6488

JR中央線 東小金井駅北口 徒歩5分

一人間らしく生きるー



■校長 松岡 三夫
■創立者 広田 精一
■扇本 真吉
■創立 明治40年9月
(1907年)

■設置学科
・普通科
・電子電気課
・情報科学科

■募集定員(男子)
・普通科 225名
・電子電気課 90名
・情報科学科 90名

小金井キャンパスに移転してから早3年になりました。移転を契機により一層の飛躍を求めて教育内容から制服まで新たにし向上につとめているところです。新しい地に移り広報活動にも力を入れておりますが、ここに新しく生まれ変わった東京電気大学高等学校を紹介いたします。

特 色 全学科とも大学進学を目指す

「人間らしく生きる」の校訓のもとに、生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かなる人間性と高い知性と強じんな体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。

各科の特色

・普通科は、理系はもちろん文系へも幅広い進路で大学進学に目標を置き、カリキュラムもこれに対応できるよう編成されている。2年次からは志望に合わせて国公立大学の理系・文系、私立大学の理系・文系の4コースの授業が受けられ3年次には選択講座によって受験科目

を重点的に履修できるようになっている。また東京電気大学とは密接に連携しており推薦制度も大いに活用できるのが特徴である。

・電子電気科と情報科学科も、東京電気大学と密接に連携しており推薦制度を活用できるコースでカリキュラムもこれに対応した内容となっている、その学習は普通教科の充実の上、さらにそれぞれの専門分野を学び大学への専門課程へのステップとなっている。電子電子科は2年次から希望に応じて専門科目が選択でき電子コースと電気コースに分かれて、また情報科学科は、3年次で希望に応じて専門科目が選択できソフトコースとメカトロコースに分かれてより専門的な学習ができる。

<東京電気大学への推薦制度>

大学への推薦枠数は大幅にアップし工学部一部・理工学部へは普通科で180名以内、電子電気科と情報科学科は合わせて72名以内で推薦され工学部二部・短大を含めると約80%が推薦で入学している。

<アイオワ大学への留学制度>

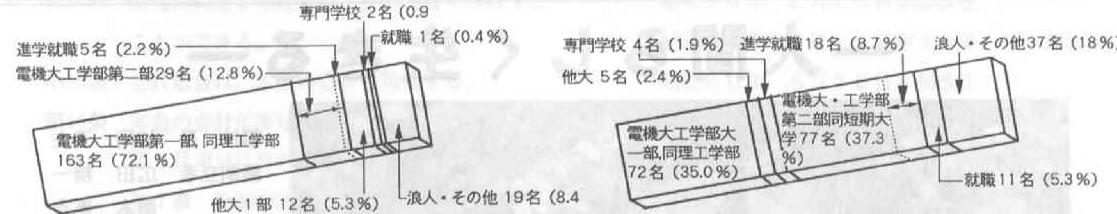
東京電気大学は、アメリカ中西部にあるアイオワ大学と提携し学術交流、交換留学制度をもっている。本校と

は推薦入学に関して協定を結んでおり、工学部へ毎年12名以内の推薦枠がある。講義を理解できる程度の語学力があれば、アメリカの一流大学で学ぶことができる。

平成6年3月の卒業生進路

普通科(226名)

電子電機科・情報科学科(206名)



主な合格大学一覧(平成5年3月卒業生)

普通科		東海
«国公立大»		東京電機
東京農工	科学	東邦
東京都立	科学	日本
«私立大»		法政
青山学院	科学	明星
学習院	科学	
杏林	科学	
芝浦工大	科学	
城西	科学	
成蹊	科学	
中央	科学	
電子電気科・情報科学科		
«私立大»		
関東学院	大成	
東京電機	大成	
関東学園	大成	
ネバダ州立大日本校	大成	
稚内北里学園(短大)	大成	

東京電機大学への学部・学科別推薦合格者数(過去3年間)

年度	普通科			電子電気科・情報科学科			
	学部と学科	平6	平5	平4	平6	平5	平4
工学部 第一部	電気工	16	16	12	6	6	6
	情報通信工	16	16	12	6	6	6
	電子工	16	16	12	6	6	6
	機械工	15	15	10	6	6	5
	機械工	15	15	10	6	6	5
	精密機械工	15	15	8	6	6	4
	建築	15	15	8	6	6	4
	小計	108	108	72	42	42	36
	数理科学	2	0	5	5	2	2
	情報科	5	10	8	5	4	4
工学部 第二部	経営工	12	9	10	5	5	5
	建設工	12	12	10	5	5	5
	産業機械工	12	12	10	5	4	5
	応用電子工	12	10	8	5	5	4
	小計	55	53	51	30	25	25
	合計	163	161	123	67	61	72
工学部 第二部	電気工	7	2	13	20	29	13
	情報通信工	8	5	13	19	23	13
	電子工	1	3	13	19	16	13
	機械工	13	7	13	14	20	13
	小計	29	17	63	72	88	52
	短大電気	0	0	11	5	2	14
	合計	29	17	63	77	90	66
	総合	192	178	186	149	157	127

(注) 第二部の推薦は全科あわせて各学科それぞれ25~31名で計100~124名。
短大のそれは全科あわせて25~31名。

学園生活とその環境

部活動は活発で、文化部9、運動部15の他にゴルフ、囲碁等の同好会、愛好会10がある。文化部では、科学部が外部の理科学研究発表会で毎年表彰され、吹奏楽は積極的に演奏発表に参加している。運動部では、自転車競技部が数多く関東大会、全国大会に出場し、バレーボール、アメリカンフットボールは本校が公式試合の会場にもなっている。体育祭、文化祭は9月下旬にありTDU武蔵野祭では女

子高生との交流が盛んで大変な賑わいである。

・緑豊かな自然環境

キャンパスは、武蔵野の風情を色濃く残す豊かな自然に囲まれている。名勝小金井櫻をはじめ玉川上水や、大岡昇平の「武蔵野夫人」の舞台となった野川周辺、武蔵野郷土館やスポーツ施設もある広大な小金井公園など、静かで落ち着いた環境は魅力的。周辺には法政大学工学部、亞細亞大学、東京農工大学工学部があり若々しい学生街のムードが漂っている。

編集後記

朋友1993年版の発行が大変遅れてしまったことを、まずお詫び致します。掲載内容は1993年(平成5年)のものとなっていますが、1994年版も急ぎ発行予定ですのでご了承下さい。

また、母校では平成6年度より、校長が宮崎登先生から松岡三夫先生に変わりましたが、編集のおくれから本号では宮崎先生の退任のご挨拶だけを掲載することとなりました。松岡新校長のご挨拶が次号になってしまふことを、あわせてお詫び申し上げます。

[編集担当]

平成6年7月2日発行(非売品)

(編集兼発行所)

東京電機大学高等学校同窓会

住所: 東京都千代田区神田錦町1の4

東京電機大学校友会内

電話: 03-5280-3512

東京電機大学高等学校

住所: 東京都小金井市梶野町4-8-1

電話: 0422(37)6441(代)